

PRAEVIDENTIA DAILY (7月15日)

昨日までの世界：株高で円安

昨日は、世界的に株価が上昇する中で、米長期債利回りの上昇もあってドル/円が上昇したほか、ブラジルレアルや南アランドなどの新興国通貨も上昇した。また先週金曜にカナダ雇用統計の悪化を受けて大幅下落していたカナダドルも小反発した。結果として、対円相場の前日比変化率は、レアルが+0.6%、ランドが+0.5%、カナダドルが+0.4%、ドルが+0.2%などとなっている。ユーロは欧州勢が取引を開始する東京時間午後4時頃に上昇したが材料はなく、フロー主導の動きとみられる。Draghi・ECB 総裁は欧州議会で金融緩和継続姿勢とユーロ高が景気回復にとってリスク要因になると述べたが、殆ど反応がなかった。

この間、豪ドルやNZドルは米株高でも殆ど上昇しておらず最近の米株価との相関の薄さが続いているほか、ポンドは対ドルで材料なく下落したが、対円では173円台半ばで横ばい圏内の動きとなっている。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	+0.02	+0.01	-0.00	+0.03	+0.03	+0.00	+0.5	+0.9	+0.1	+0.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	+0.1	-0.01	+0.00	+0.01	-0.02	+0.01	+0.03	+0.9	+0.5	+0.3	-0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	-0.02	-0.01	+0.01	-0.03	+0.00	+0.03	+0.8	+0.5		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.0	+0.02	+0.03	+0.01	-0.00	+0.03	+0.03	+0.5	+1.0	+0.1	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.0	+0.01	+0.02	+0.01	-0.02	+0.01	+0.03	+0.5	+1.0	+0.1	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.2	+0.02	+0.01	-0.01	+0.03	+0.03	+0.00	+0.5	+0.1	+0.1	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：英ディスインフレは一服するか

きょうの注目通貨：GBP↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 RBA 議事要旨	10:30			
日銀決定会合	未定			市場予想は政策変更なし
黒田日銀総裁定例記者会見	15:30			
Noyer 仏中銀総裁発言	16:30			
英 6月 CPI 前年比	17:30	+1.5%	+1.6%	BoE 物価目標は 1-3%
同コア CPI		+1.6%	+1.7%	
ドイツ 7月 ZEW 期待指数	18:00	29.8	28.2	予想通りだと7か月連続悪化
Carney・BoE 総裁ら議会証言	18:00			6月発表の金融安定報告関連
米 7月 NY 連銀製造業景況指数	21:30	19.28	17.00	
米 6月総合小売売上高・前月比	21:30	+0.3%	+0.6%	
同コア小売売上高		0.0%	+0.5%	除く自動車・ガソリン・建材
Yellen・FRB 議長議会証言	23:00			16日にも議会証言
中国 6月新規人民元建て融資額・元		8708億	9550億	発表は14日か15日
中国 6月総資金調達額・元		1兆4045億	1兆4250億	同上

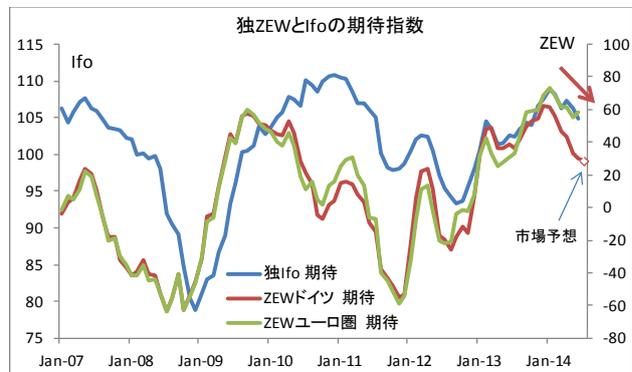
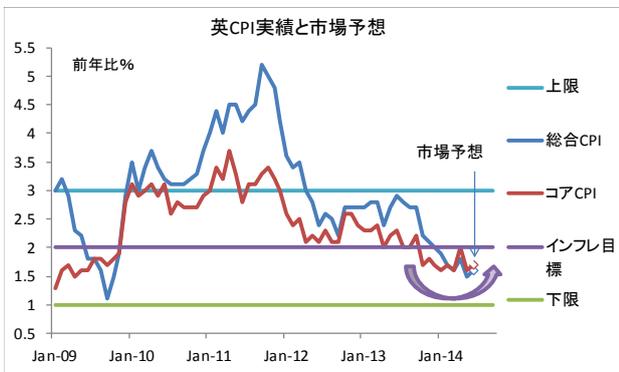
(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日の注目は英 CPI だ。英国ではこれまでインフレ率が低下傾向にあり、統計発表時にポンドロングの巻き戻しが入る局面が多かったが、今回は前月からのインフレ加速が予想されており(下図を参照)、インフレ率の

低下一服・反発が確認されれば、BoE 内の早期利上げ消極派を弱めるかたちで、ポンド相場は7月23日発表のBoE 議事要旨に向けて対ドルおよび対ユーロで年初来高値（各々1.7180 ドル、0.7915 ポンド）を上回るだろう（7月5日付当社週次レポート「GBP：タカ派の多寡」を参照）。

ユーロ圏では、7月分の景況感サーベイとしてはPMI や Ifo に先立って最初に発表されるドイツ ZEW 期待指数が注目され、7か月連続の悪化が予想されていることから、ユーロ売り材料のはずだ（下図を参照）。但し ECB が6月の政策理事会で金融緩和を決定した後、ユーロ下落は一服しており、再び下落基調に戻すには材料不足かもしれない。

本邦では日銀決定会合が開催される（結果発表時刻は、09年以降の平均は12:46分）。政策変更は予想されないものの、4月発表の展望レポートの中間評価で2014年度GDP成長率予想が小幅に下方修正される可能性が報道されている（4月展望レポートにおける14年度、15年度、16年度の日銀大勢見通しは各々+1.1%、+1.5%、+1.3%）。とは言え、15年度、16年度の成長率見通しや、CPI見通し（消費増税の影響を除く分）が同程度に下方修正されず、特に15年度、16年度のCPI見通しが4月時点の各々+1.9%、+2.1%から下方修正されなければ、インフレ目標達成シナリオは崩れず、日銀の追加緩和が必要ないことから、円高材料となるだろう。他方、現在のところ可能性は低いが、15年度CPI見通しが1.7%以下へ下方修正されると、「追加緩和の格好の言い訳」となることから、追加緩和期待が高まり円安要因となるだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641